

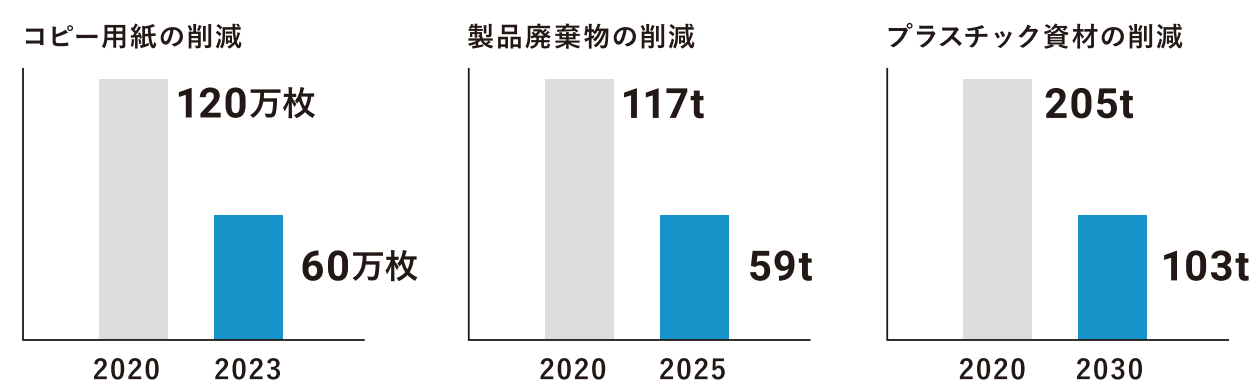
Mマークシリーズにできること 持続可能なブランドであるために

あれこれ加えるのではなく、必要なものだけを配合する。1995年に発売して以来、家族みんなで使えるブランドとしてご愛用いただいている松山油脂のMマークシリーズ。環境問題の顕在化やコロナ禍などに直面し、新しい生活様式、新しい価値観が広がっていくなか、Mマークシリーズにできることを改めて考えています。環境負荷を減らすために、容器や資材はどうあるべきか、安全・安心な原料基準とは何なのか、お客様や社会にとって公正な販売形態とはどういうものなのか。この先の30年もお客様に選んでいただくために、そして、松山油脂が考える持続可能性をわかりやすく体现するブランドであり続けるために。Mマークシリーズの存在意義をゼロから考え、お客様に改めて提案します。



環境負荷低減に向けた目標 いまでできることに誠実に取り組む

事業活動のなかで無駄をなくし、廃棄物を削減して環境負荷を低減します。年間約120万枚使用しているコピー用紙、返品や販売終了のためにやむを得ず廃棄している約117tの製品、年間約205t調達している製品用のプラスチック資材を、それぞれ期限を決めて50%まで削減します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

松山油脂は「日本と世界の人々のデイリーウエルネスに貢献する」ことを目的にモノづくりを続け、製品を提案してきました。SDGsで定められた2030年までに達成すべき17の目標に対しても、デイリーウエルネスの基本である「心身のすこやかさと日常の豊かさ」を第一に考えて行動し、社会課題の解決に努力します。

働き方改革（WORK2024）の推進 働きやすさと働きがいを両立する制度づくり

スタッフが、主体性と多様性を広げつつ専門性を高められる制度を増やしました。個性や強みを生かせる仕事、新しいスキルやノウハウを身につけられる仕事、自分にしかできないと思える仕事。それらを実現できる場となり、働きがいのある会社となることで競争力を高め、長期的利益を維持し、スタッフへの分配、お客様への還元や社会貢献の源泉とします。



CO₂排出削減に向けた取り組み 再生可能エネルギーへの切り替え

2022年度、富士河口湖工場に太陽光パネル453枚を設置し、電力の一部を再生可能なものに切り替えます。事業活動で排出しているCO₂を削減するためです。業務改善による省エネも進め、技術と意識の両面で、脱炭素を実現します。



山神果樹薬草園が目指すこと 地域に還元する循環型農業の仕組みづくり

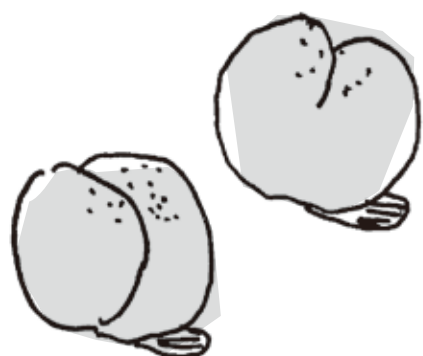
2020年に徳島県佐那河内村で本格稼働した山神果樹薬草園は、松山油脂の最も新しい事業所で、SDGsのフラッグシップです。周辺農家から集めた、キズや規格外などの理由で出荷されない和柑橘を原料にして精油を抽出し、ジュースやジャム、リキュールやコーディアルをつくり販売しています。最後の残渣も有機菌床堆肥にして、果実を丸ごと使いきります。その収益で、再度農家から果実を買い取り、加工し販売し、収益を上げる。山神果樹薬草園が目指す循環型の果樹農業です。

山神果樹薬草園が目指すのは再生と循環です。使われなくなったモノに新たな価値をつけて生まれ変わらせ循環させる。生業を通して「再生と循環」を実践し、持続可能な社会をつくっていきます。



1.

果実から新しい価値 モモ果汁発酵液の開発



桃の生産量全国1位の山梨県。ただ、生産される桃のなかには、生果として出荷できずにジュースなどの加工用に回っているものや、摘果され埋め立てられたり焼却処分されたりするものもあります。このような桃を化粧品原料として生まれ変わらせるのが「富士北麓ラボラトリー」です。山梨大学長沼研究室のご協力で、桃果汁の発酵液に角質層の水分保持効果と、キメ・毛穴の改善効果があることを発見。2021年、スキンケア製品への配合を始めました。価値が下がってしまったモノに新たな価値を与えて再生させる、これは持続可能な地域振興へとつながる取り組みです。



2.

プラスチック削減の ためにすべきこと



松山油脂では、廃プラスチックの問題が今ほど大きな関心を集めていなかった20年以上前から、詰替用製品の製造販売を続けています。シャンプーやボディソープなど洗浄製品はもちろん、当時2〜3社が販売しているだけだった化粧水やクリームなど、スキンケア製品の詰替用も製品化しました。また、近年は一部の製品のシュリンクフィルムによる包装を中止しました。これからも、詰替用製品のさらなる拡充に加えて、代替資材の検討、量り売り、マテリアルリサイクルなど、プラスチックそのものの使用量・廃棄量の削減に向けた具体的な活動を続けていきます。



3.

濃厚石けん液を 生まれ変わらせる



透明石けんの製造過程で生じる濃厚石けん液は、廃棄物削減の点からも、最適な処理方法を見つけることが長年の課題でした。その解決策として、2021年の秋に導入したのがドラムドライヤーです。ドラムドライヤーは、濃厚石けん液の水を蒸発させ、再利用可能な形で石けん分を分離します。これまで週1t排出していた濃厚石けん液が、透明石けん約490個に相当する石けん分になって回収され、クレンザーとして生まれ変わります。廃棄していたモノを再生し、循環させる。この新たな取り組みを広くご理解いただき、愛用していただける製品として育てていきたいと思ひます。



4.

地域の清掃 地域社会への貢献



訪れた方に気持ちのよい時間を過ごしてほしい。毎日通るなじみの場所をきれいにしたい。そんな思いから、山梨県にある3事業所のスタッフは、6月と10月に富士山の旧登山道を、墨田本社・工場では10月に荒川の河川敷を、山神果樹葉草園では年末に村の道路沿いを清掃しています。回収したゴミを見ていると、ひとりひとりの心がけがいかに大切かを実感します。年に数回のささやかな活動ですが、自然環境を守るという大きな役割の一環です。自分のなかに育った意識を自分の周りや子どもたちに伝え、広げる。清掃はそのための活動でもあります。



5.

個性を強みに 仕事の多様性



松山油脂のモノづくりは、一人では完遂できません。色々な個性が集まり、ともに働く。価値のある製品をつくり出すために、声をかけ合い、助け合う。スタッフ全員が意識していることです。それに連なる取り組みのひとつとして、障がい者雇用も進めています。障がいがあっても他のスタッフと分け隔てなく、働きがいを持てるよう、条件を整えています。生産準備や製造補助、出荷補助など、さまざまな業務を通して、やりがいを感じ、喜びを分かち合えるよう、それぞれの個性に合った最適な仕事ができる環境を、そこに働くスタッフがみんな支え合いながらつくっています。



6.

持続可能な パーム油の調達



数多くの製品に使用しているパーム油・パーム核油を、できるだけ環境負荷の少ないものに切り替えるため、松山油脂は2019年7月にRSPOに加盟しました。2021年4月からは、RSPOマスマランス認証油の調達も始めています。RSPOは「持続可能なパーム油のための円卓会議」の略称で、近年東南アジアを中心に起こっている、急速なパーム農園の拡大に伴う熱帯林の伐採や生物多様性の喪失、先住民や労働者の人権問題を改善するための国際的な認証団体です。自然環境・社会環境に負荷の少ないパーム油を市場で標準化させるため、2004年に設立されました。

